

広報

いちき串木野

R7. 8. 20 発行

8

vol. 238

平和について考える 8 月
80年前この海から迫った恐怖

特集

- ① 戦後80年～本土決戦の真実～
- ② 長崎鼻公園リニューアル



いちき串木野市公式LINE

イベント情報など配信中！ぜひご登録ください



戦後80年

真近に迫った本土決戦の真実

平和のために見つめ直す 80 年前の真実



本市への空襲の様子

出典：いちき串木野市郷土資料集 4
戦争の記憶編

80年前の1945年8月15日、日本はアメリカに無条件降伏し、第二次世界大戦は終結を迎えました。しかしながら、降伏していなければ、アメリカ軍は、本市を含む南九州から日本に上陸する作戦（通称：オリンピック作戦）を企てていたことをご存知でしょうか。そうなっていれば、このまちも悲惨な本土決戦の舞台になっていたかもしれません。

終戦から80年を迎え、当時のことを知る方が少なくなってきた中で、今回は、戦争を語り継ぐ会副会長で、戸崎地区に住み、実際にオリンピック作戦へ備えた旧日本軍を目の当たりにした中山重雄さんにお話を聞きました。

死ぬ思いがした機銃掃射からの銃撃

ー日本本土への空襲や銃撃が激化していた終戦間際の1945年7月。10歳の中山さんは、母親と田んぼで作業をしていた。草を刈っていると突然、湯之元方面からアメリカ軍の戦闘機が襲来し、機銃掃射を受けた。

1回目の襲来で、運よく銃撃に当たらず、母親とともに急いで田んぼの隅の用水路に飛び込んで、水面から顔だけ出して様子を見ていた。ぐるっと回ってもう一度襲来した戦闘機は、パイロットと目が合うほどの高さを飛んでおり、機銃掃射のドドドッという銃撃の音が怖くて、生きた心地がしなかった。ー

中山さんは、隠れながら「痛い思いをして死ぬのは嫌だな。足や手に大怪我したくないな」という思いでいっぱいだったと語ります。3度目の襲来はなく、用水路でずぶ濡れになった母親と身を寄せながら自宅に帰りました。

当時、防空壕前に爆弾が落ちて亡くなる人が出たり、民家の壁に銃撃の大きな穴が空くなどを見聞きして、アメリカ軍の攻撃を身近に感じていました。



中山 重雄 さん (90歳)

1935年生まれ。戦時中空襲や敵機からの銃撃を経験し、10歳で終戦を迎える。またオリンピック作戦に備えた旧日本軍を間近で体感した。10年前に「戦争を語る会」を有志と立ち上げて、学校などで自身の戦争体験を伝える活動を行っている。

戦車特攻の訓練を見てこれは只事ではないと感じた

オリンピック作戦へと備える旧日本軍

第二次世界大戦末期、アメリカ軍は、日本を降伏させるため、本市をはじめとする南九州へ上陸するオリンピック作戦を企てていました。その作戦を察知した旧日本軍は、上陸予想地点に部隊を配備して、塹壕や弾薬の準備に取り掛かりました。中山さんが戦後に調べた資料によると、その中でも戸崎地区は、多くの部隊が配備され、死守という文言が使われるほどの重要地点でありました。

弾薬や物資を地域の方と一緒に荷下ろしたと語る中山さん。当時は、日本全国に兵隊さんが訓練しているのだと思い、近所で行われる訓練を見ていました。しかしながら、兵隊さんが爆弾に見立てた薪を抱えて、戦車に特攻していく訓練を目の当たりにした時、子どもながらこれは只事ではないと感じたと振り返ります。

その後 1945 年 8 月 15 日に終戦を迎え、オリンピック作戦は実行されませんでした。大人になり、戦争について調べた時に、自分の生まれた町がアメリカ軍に侵攻されるかもしれなかったということに恐怖を感じたと中山さんは話します。



アメリカ軍が計画していた上陸計画
参考：戦史叢書



▲現在の戸崎海岸



戸崎海岸の防空壕跡▶

生きている限り戦争を伝える活動をしていきたい



中山さんは、10年前から「戦争を語る会」を有志と立ち上げて、多くの現代人が体験していない戦争を学校などで次世代の子どもたち伝える活動を続けています。

「当時の日本はなぜこれほど大変なことになるまで、停戦や休戦をしなかったのか。人の命が軽く考えられていた。人と人が殺し合う戦争は、二度としてはいけない。自分の命も他人の命も大切にしてほしい。そのため、命ある限りこれからも伝える活動をしていきたい」と力強く話していただきました。

新 長崎鼻公園

リニューアル 始まっています♪



跳びはねて遊ぶネット遊具



斜面を利用した遊具



車椅子でも使える遊具

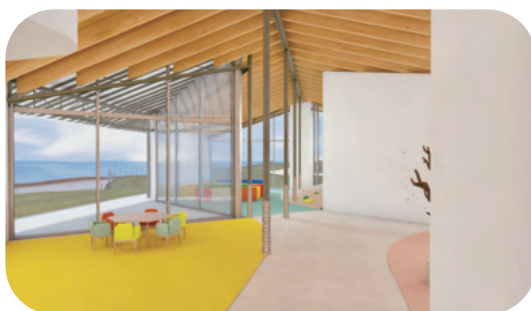


至 長崎鼻灯台



海水プール

※イラストと画像はイメージです。



1 屋内遊戯室



2 海を見ながら
飲食できるカフェ

なお、リニューアルオープンは令和８年夏頃を予定しています。この期間、長崎鼻公園の一部が利用できません。皆様のご理解ご協力をお願いします。



駐車場

雨の日に利用し
やすいポーチと
障がいのある方
や高齢の方に配
慮したスペース
のある駐車場

至 ホテルアクシアくしきの

自然いっぱい♪



誰でも歓談を楽しめる
多目的ホール

詳しい内容や図面は
右の二次元コードから



●問合せ 都市建設課 ☎21-5153

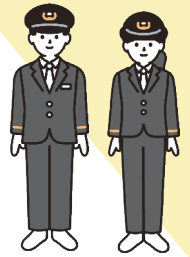
市内公共交通の再編を実施します

～10月1日からいきいきバス・タクシーが変わります～

公共交通の現状と再編

市では、高齢者、免許返納者等の外出支援や促進、市民生活に必要な移動手段を確保するため、交通事業者へ委託し、コミュニティバスの「いきいきバス」、乗り合いの「いきいきタクシー」を運行しています。しかしながら、今般の交通業界の運転手不足や労働時間問題等により市内公共交通の再編が必要となり、交通事業者などと調整を行ってきました。

それに伴い、10月1日よりいきいきバス・民間事業者のバス路線の統合、いきいきタクシーのエリア拡大、新規導入、公共ライドシェアの導入等、市内公共交通の再編を実施いたします。皆さまのご理解ご協力をお願いします。



市内公共交通再編図



再編内容 新しいダイヤなど詳しくは、広報紙9月22日号に掲載します。

① いきいきバス2路線と民間の路線バス1路線を1つに統合

統合路線 いきいきバス羽島荒川線、木原墓地線、鹿児島交通路線バス羽島土川線

運行日 毎日（土曜日曜祝日は減便）

運行経路 羽島車庫～荒川下～串木野駅～本町～市役所前～本町～小瀬～島平～酔之尾～神村学園前～市来ふれあい温泉センター～市来農芸高校～市来駅

② いきいきタクシー冠岳・生福・上名線の改称・エリア拡大

冠岳・生福・上名線を串木野東部線に改称し、同路線に木原墓地・八房・海瀬のエリアを編入します。

③ 荒川地区にいきいきタクシーを導入

バス路線の廃止に伴い、交通空白地となる荒川地区に新たにいきいきタクシーを導入します。

運行経路 郊外地（荒川地区の自宅等） ⇄ 串木野市街地（バス停）

④ 羽島地区に公共ライドシェアを導入します

バス路線の廃止に伴い、交通空白地となる羽島地区に新たに公共ライドシェアを運行します。

運行日 毎日（土日祝日は減便）

運行経路 土川、下山、平山、万福 ⇄ 羽島車庫（いきいきバスに接続）

※土曜日のみ：羽島地区（各バス停にて乗降） ⇄ 串木野市街地（バス停にて乗降）

食のまちストーリーズ Vol. 24



本市で取り組んでいる「食のまちづくり」に関連する情報を紹介します。「食」を通じて、いろんなことを楽しむ、いろんなことをやってみる。人がいきいきと輝き、まちが元気になる。それが「いちき串木野市 食のまちづくり宣言」です。本市は、海の味、山の味、こだわりの珈琲から蔵元の焼酎まで、心がほっとするおいしいものが身近にある、豊かな食文化を誇るまちです。この食文化をおいしく、楽しく味わいながら、人がいきいきと輝くまちにみんなで育てていきましょう。

一杯のコーヒーからご縁と選択枝を広げ、まちの解像度を深める ～ 食のまちPRパートナー KENT COFFEE 店主 荒田健人さん ～

Text & photo Yasutoshi Kami

皆さんは『食のまちPRパートナー』（以下：PRパートナー）をご存知でしょうか。いちき串木野市では食の魅力発信や食に関するプロジェクト等に積極的にかかわり、市と一緒に「食によるまちづくり」を推進していく仲間として2022年度から個人や団体を登録しています。

今年度は、PRパートナーとして活動されている方々をご紹介します。今回ご紹介するのは「KENT COFFEE」店主の荒田健人（あらた・けんと）さんです。

一人ひとりのお客様に合った美味しいコーヒーを提供できるように
＜KENT COFFEE
店主 荒田健人さん＞

本市出身の健人さん。社会人になると、カフェ巡りが休日の楽しみになり、次第に「いつかはカフェを始めたい」という気持ちが芽生えてきたのだとか。そのタイミングでSHIRAHAMA COFFEE STANDの店主から「リニューアルする市来ふれあい温泉センター内の新しいコーヒースタンドで働かないか？」と誘いを受けたのが大きな転機となり、2019年8月からKENT COFFEEの店主としての日々がスタートしたのです。

「オープン当初からずっと意識しているのは“いかにお客様の口に合う美味しいコーヒーを淹れられるか”です。市来ふれあい温泉センターには幅広い年齢層の方が訪れるので、一人ひとりのお客様に合った商品の提供や声かけを意識しながら臨んできました」

まちの人と手を取り、
まちの解像度を深める



PRパートナーとしては2年前から活動を始め、それまで以上に地域との接点が増えてきたのだとか。その流れからPRパートナーメンバー同士で親子向けの農業体験イベントを開催したり、生産者と連携した取り組みも増えてきたりと活動の幅が広がってきています。

「できるだけ地域内で循環できる連携を心がけています。そこで生まれた繋がりから、お客様がいちき串木野市で楽しめるコン

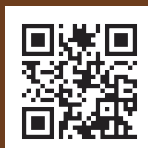
テンツを色々ご紹介できたりと、まちの解像度が深まっていると実感しています」

一杯のコーヒーから広がる
ご縁と選択枝

昨年、県内で開催された「KAGOSHIMA VOLCANO BREWERS CUP 2024」で優勝という快挙を成し遂げた健人さん。最後に今後の展望について聞きました。

「KENT COFFEEでは“一杯のコーヒーで、いいご縁を”というキャッチコピーでお客様にコーヒーを提供しています。ご縁がきっかけで新しい繋がりが広がり、地域全体が盛り上がると思っています。もっと多くの方にいちき串木野市を認知してもらえるようなきっかけをどんどんつくっていききたいです」

これまでのおいしい情報、コラムの続きは右の二次元コードからご覧ください。



公式note

市制施行 20 周年記念 第 53 回串木野さのさ祭り開催

7/20



今年も本市の夏の風物詩、串木野さのさ祭りが開催されました。約 1,100 名の方々が踊り手として市中流し踊りに参加し、大いに盛り上がりました。

今年は、踊りの表彰もあり、最優秀賞は神村学園専修学校日本語学科、ハッスル賞は Kushikino WP` s でした。

また、出店エリアの「さのさ GENKI 横丁」も多くの来場者で賑わいました。

いちき串木野サマーフェスタ ～いちき串木野花火大会～

8/2



「いちき串木野サマーフェスタ～いちき串木野花火大会～」が開催されました。

地元事業者等による多数の出店や、ステージでは、祇園祭の山車による競演の他、七夕踊・川上踊・虫追踊など郷土芸能が祭りを盛り上げ、大いににぎわいました。

フィナーレでは約 40 分間にわたる迫力ある花火が夏の夜空を彩り、来場者から大きな歓声があがっていました。

神村学園 3 年連続夏の甲子園

7/29



神村学園高等部男子硬式野球部が、高校野球鹿児島県予選を優勝し、第 107 回全国高校野球選手権大会（夏の甲子園）へ出場を決めました。

7 月 29 日、串木野庁舎で壮行会が行われ、小田大介監督から各選手のポジションや特徴、見どころなどの紹介がありました。

今岡拓夢主将は、「去年、一昨年で敗れた準決勝の壁を打ち破りたい」と力強く抱負を話し、甲子園での活躍に期待が高まる壮行会となりました。

市来湊祇園祭の開催

8/2



湊町地区で、祇園祭が開催されました。天神町の天神山（男山）、祇園町の道風山（女山）、土橋町の竜宮山（女山）の 3 台の山車が巡行し、活発な男山、優雅さが漂う女山のお囃子が湊町に響きました。

夕方に八坂神社を出発したのち、サマーフェスタ会場で競演を繰り広げました。

7/3

2025 東京デフリンピック キャラバンカーがやってきました！！



11月15日から26日の期間に「東京2025デフリンピック」が開催されるのにあわせて、公式キャラバンカーが串木野庁舎へやってきました。

デフリンピックとは、4年に1度開催される、きこえない・きこえにくいアスリートのための国際スポーツ大会です。今回は日本初開催で、さらに100周年の節目となる大会です。

鹿児島県からも出場する選手の方々がいらっしゃいますので、応援をよろしくお願いします。

7/9 ~ 17

サリナスから本市に 派遣高校生が来訪



7月9日から17日まで姉妹都市のアメリカ・サリナス市から高校生9名が本市を訪れました。滞在中は、市役所・消防署・警察署及び学校を訪れたり、大漁旗や、和菓子づくり等を体験するなど、初めて見る日本文化や食事などに興奮した様子でした。

この事業は、いちき串木野市サリナス市姉妹都市協会主催事業で、1979年5月27日に姉妹都市盟約が締結されてから、今回の訪問を含め17回、のべ139名の派遣生が本市を訪れています。

7/5

中央地区まちづくり協議会 七夕飾り作り



中央地区まちづくり協議会主催の七夕飾り作りが中央交流センターで行われました。

地区内の子どもや神村学園専修学校日本語学科の学生など、総勢80名が参加し、七夕飾り作りや笹竹への飾りつけを通して、楽しくコミュニケーションをとったり、日本の伝統文化に触れたりしていました。

当日飾りつけられた笹竹は、中央交流センター前や、カッチェルなどに設置され、さのさ祭りの日まで串木野の夏を彩りました。

7/13

第29回海岸クリーン作戦



市内全域の海岸で、市民の環境に関する意識啓発と海岸の美化活動を目的に「第29回海岸クリーン作戦」が実施されました。

この日は、約800人の市民の方々が海岸に打ち上げられたごみなどを約1時間かけて懸命に回収しました。早朝にもかかわらずご協力いただき、ありがとうございました。

これからも美しい海や海岸を残していくために、地域ぐるみで協力しましょう。

※市では、ボランティア清掃時のごみ袋を提供しています。必要な方は市民生活課（☎33-5614）、市来庁舎市民生活課（☎21-5111）へご連絡ください。

7/12

フラッグラッド鹿児島 バレーボール教室開催



昨シーズンのVリーグで総合優勝したフラッグラッド鹿児島の選手によるバレーボール教室がFアリーナいちき串木野で開催され、市内外の小学生から高校生の計117名が参加しました。

教室では、頭と体を使ったウォーミングアップからトスやレシーブ、アタックなどの基本的な技術を教わり、プロ選手と過ごす貴重な時間となりました。

参加者は「分かりやすく教えてくれて、とても楽しかった」「学んだことを今後に活かして、もっと上手になりたい」と話しました。

今年度も本市でフラッグラッド鹿児島のホームゲームが予定されていますので、ぜひご観戦ください。

6/27

串木野高校アーチェリー部 九州高校総体優勝



6月下旬に佐賀県で開催された九州高校総体のアーチェリー競技において、男子団体の部初優勝を成し遂げた串木野高校アーチェリー部が市長を表敬しました。

接戦の末勝利を手にした団体戦について、キャプテンの中袴田鈴さんは「日頃から団体戦を見据えて練習に打ち込んできたので、その成果を発揮できてよかった」と喜びを語りました。

なお、同大会の個人の部で、1年生の中袴田遊さんが優勝、3年生の中袴田鈴さんが3位という成績を収め、男子団体とともに8月の全国高校総体へ挑みました。

6/28
・29

市来コーラスが「篤姫賞」受賞



宝山ホールで第48回全日本おかあさんコーラス大会九州支部大会が開催され、市来コーラスが優秀賞である「篤姫賞」を受賞しました。

惜しくも全国大会出場とはなりませんでした。優秀賞受賞という初めての快挙に、出場した皆さんは感激していました。

6/29

黎明の地ふるさと短歌講座開催



中央公民館にて、鹿児島県歌人協会会長鶴田直樹先生を講師として短歌講座を実施し、20名が参加しました。

今回は事前に希望者が短歌を提出する歌会形式で行われ、先生による推敲によって作品がさらに味わい深くなると、感嘆の声が上がりました。受講者は真剣に聞き入り、短歌の奥深さを感じていました。

20周年を祝う

～いちき串木野市誕生 20 周年～

10月11日のいちき串木野市誕生 20 周年に向けて、市民の皆さんとともに祝い、今後の市制の発展につながるさまざまな催しを予定しています。本シリーズではその詳細や進捗をお伝えします。

20周年
(10月11日)まで
あと **53日**
(8月20日時点)

消防本部マスコットキャラクターの愛称が決定しました

市制施行 20 周年を記念し、市民の皆さんの防火・防災意識の向上や親しみやすく身近な消防を目指すため、消防本部のマスコットキャラクターを制作しました。

そのキャラクターの愛称を公募したところ、総数 64 点の応募がありました。多数のご応募ありがとうございました。審査の結果、最優秀賞を決定しましたので、公表します。

今後、消防に関する色々な情報発信の場で活用していきます。



愛称 ^{しょうま} 消馬くん

命名者 西村 和典さん（福井県敦賀市）

命名者による愛称の命名理由

消防の『消』といちき串木野市の春の風物詩「串木野浜競馬」に出走する『馬』を合わせて、親しみやすく『消馬(しょうま)くん』としました。

いにしえの わが町の 文化財紹介 香り No.9

「いにしえの香り」では、市で行っている文化財等調査保存事業などで発見された価値の高い新資料を、隔月で紹介しています。



過去の掲載資料

菅原神社に残された災害記録

今回は市来湊にある菅原神社のお話です。

菅原神社は、現在菅原神社跡地公園となっていて赤い鳥居と祠、狛犬などが残されています。御神体は市来神社に合祀されています。

市来神社に保管されている菅原神社の棟札には、『享保元（1716）丙寅十一月十五日「天満宮再興記」』として、江戸時代に市来湊に大きな竜巻が近づいたことが記録されています。そこには、波が天まで激しく上がり、電光と雷鳴がとどろき、巻き上げられた物が上空に飛ぶ姿も見えたと書かれています。竜巻は別府沖付近で発生し、たちまち猛烈な竜巻となって市来湊に近づいてきました。当然、市来湊は壊滅すると思われました。

ところが、竜巻は菅原神社に大きな損害を与えただけで、すぐに冠岳方向へ通り過ぎていったのです。湊村には何の損害もなかったことから、村人たちは、「きっと天神様が身代わりとなって村を守ってくださったに違いない」と思いました。天神様の霊験あらたかなことに感じ入り、すぐに社殿を再興することにしました。村の人たちは喜んで寄付し協力しました。そして、このことを長く伝えるために棟札に記しました。



棟札



菅原神社跡地公園